

● 演技・発表も高い水準

展示や研究発表を強調し過ぎたかもしれませんが、プラスバンドの演奏や演劇部の発表、ダンス部・新体操部・合気道部などの演技・演舞も「けやき祭」の見所です。なかでもチアリーディング部の“マスゲーム+アクロバット”の演技は、ひときわ華やかな躍動感を堪能できます。

他方で、茶道部の「お茶会」のもてなし、クッキング&クラフト部の「制作実演」（ケーキや、クッキーなどを即売）、



学園を明るくリード

情報技術研究部のパソコン組み立てなど、文化系クラブの活動のようすを間近に見ていただく楽しみも豊富です。

こうした日頃の鍛錬の成果を楽しんでいただくことで、受験勉強だけしている学校ではないことはご理解いただけるでしょう。来場者の最高齢は80歳の卒業生（1945年卒）でした。当時から残っているのは、学園シンボルであるケヤキとソテツだけとのこと。「4代目（ひ孫）の入学も近い」と目を細めておられました。

アンケートに「学校離れた学園祭！」と、お褒め（？）の言葉もいただきましたが、私は広尾学園の「けやき祭」こそ本来の学園祭の姿であり、ケヤキの木の下に新しい伝統を重ねていくのが、教育の本道と考えています。

☆

※ 英字新聞「Japan Times」に関連記事が載りました。

帰国生たちの活躍の一端です。詳しくは次号で。

<http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/fe20071024sh.html>

小山 和智（おやま かずとも）

広尾学園中学校高等学校 国際担当

（前、順心女子学園）



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>



帰国生も頑張ってます

IBクラスの展示場

英語補習校だより（11）

JSL 理科の内容

午後の「JSL理科」について「受験勉強に役立ちますか？」といった質問を時々受けますが、基本的には小学校の理科の授業に円滑に入っていけることを目指しています。海外の現地校などで身につけてきた科学知識をできるだけ活かしながら、日本の学校での理科の授業への参加意欲と理解を高めることが目標なのです。

例えば「浮沈子（Cartesian Diver, Ludion）」は浮力や水圧・気圧の学習には欠かせない学習です。ペットボトルの中に「魚型の醤油さし」を入れるだけの簡単な実験道具を作る過程で、子供たちは「デカルトの潜水士」のイメージを離れて浮力や圧力に興味関心を高めていきます。

このほか「コップポンプ」や「教訓ポンプ」で大気圧やサイフォンの原理を体験したり、CD盤を使った分光器（Sepetroscope）を作って“虹”を見たりしながら理科の勉強をしますが、子供たちが異常に興味するところを見ると、小学校の理科の時間には“お客さん”になっていることが予想され、心が痛みます。

上皿天秤ばかり、メスシリンダー、ピーカー、顕微鏡といった基本的な実験道具を海外で経験していない子供たちのストレスにも、かなりのものがありますので、できるだけ補習していききたい部分です。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

広尾学園中学校高等学校
（前、順心女子学園中学校高等学校）
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192
www.hiroogakuen.ed.jp



「学校離れた学園祭」の「けやき祭」に、たくさんの来場者を迎えたとのことです。共学化・インターナショナルコース開設など、どんどん成長するHirogakuの活力を感じます。

その一方、ケヤキの思い出や入学予定の「ひ孫」さんのことを語られた80歳の卒業生のお話は、順心女子学園からの伝統を物語ります。校地の中心で生い茂るケヤキが、伝統と躍進のHirogakuの象徴として、今後どのような運命を迎えるのか？興味深く見守りましょう。